

## P2-015

### 乳幼児の排泄、清潔、着脱衣習慣の指導 －保育者への子どもの基本的生活習慣調査より－

鷺見 裕子<sup>1</sup>、宮崎 つた子<sup>2</sup><sup>1</sup>高田短期大学 子ども学科<sup>2</sup>三重県立看護大学看護学部

#### 【目的】

乳幼児期は基本的生活習慣の獲得が大切な発達課題であり、幼稚園・保育所の基準や指針においてもその重要性が示されている。近年は子どもの基本的生活習慣の乱れや育児不安など多くの課題がみられる。本研究は、子育て支援の取り組みの基礎資料とできる基本的生活習慣の現状把握を目的とし、本報告では乳幼児の排泄、清潔、着脱衣習慣の保育の場での指導展開の状況について検討を行った。

#### 【方法】

A県内の協力の得られた保育園の保育者を対象に、平成28年3月に無記名自記式質問紙で子どもの基本的生活習慣の獲得時期と指導留意点について調査を行った。倫理的配慮は研究の趣旨等を紙面に示し、返信をもって同意を得た。なお、本研究は所属大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。

#### 【結果】

回答を得た113名（回収率66.5%）より習慣ごとに記述不備を除いて分析対象（排泄91名、清潔78名、着脱衣75名）とした。排泄習慣の指導について7割の保育者が留意していることがあると回答した。記述の分類から具体的な指導内容は「トイレ誘導」が多く、時間や活動にあわせての実施であった。次いで紙の使用等の「排泄方法」がみられた。また、排泄の大切さや失敗時の対応による「排泄意識の醸成」や「個人差への配慮」、習慣確立のための「家庭との連携」に関する記述もみられた。清潔習慣は6割の保育者が指導について留意していることがあると回答した。具体的な指導内容は「手洗い」が最も多く、「うがい」、「鼻かみ」、「歯磨き」の順であった。また、清潔の大切さや心地よさを伝えるなど「清潔感の醸成」の記述も多くみられた。指導方法として絵本や歌など保育実践の取り組みが挙げられていた。着脱衣習慣の指導は7割が留意していた。具体的には「自分でしようとする意欲・行動」を大切に、自立を促す指導の記述が主であった。指導方法では見守りや声掛け、反復等で子ども個々に合わせた援助の工夫がみられた。

#### 【考察】

保育者への調査から、保育現場で行われている習慣獲得のための指導は、発達に即した個別対応がされていた。そして、習慣を身につけるだけでなく、獲得過程での意欲や達成感、快の感覚を得ることを大切にする指導がなされていた。また、親の意識により家庭での取り組みに差があるため、習慣獲得には家庭との連携が重要であることが伺えた。